

## 地域医療連携室における広報活動報告

～地域住民への健康相談活動を通して～

清水須美子

国立病院機構鳥取医療センター地域医療連携室

### Public relations activities of a community-based medical liaison unit

- Through health consultation services for community residents -

Sumiko Shimizu

Regional Medical Liaison Office, NHO Tottori Medical Center

Correspondence: sumiko@tottori-iryo.hosp.go.jp

#### 要旨

地域医療連携室の業務の一つに広報活動がある。過去に様々な形で、開業医をはじめ、県東部圏域の医療機関へ当院の機能を広報し、患者確保に向けた取り組みを行って来た。いまだ、地域住民の多くが当院を結核療養所と思っているのではないかと、という危惧感もあった。地域住民との繋がりを持ち、地域に根差した病院にするためには、地域住民への広報は不可欠である。昨年の年度末から地域の公民館への働き掛けを行ない、当院の医療機能がどの程度認識されているのか、地域住民にアンケートを行うことが出来た。その結果、当院の機能を知っている地域住民が意外に多いことや、地域にもっと出て来て健康教室などの相談の要望もあることも分かった。

アンケート結果と、今後の広報活動に向け示唆されたことを若干の考察とともに報告する。鳥取臨床科学 9(2), 143-147, 2017

#### Abstract

Our community-based medical liaison unit also performs public relations activities. Over the past years, it has publicized the functions of our hospital among general practitioners and medical institutions in the eastern area of a prefecture to increase the number of our patients through various attempts based on the fear that many community residents still confuse our facility with a tuberculosis sanatorium. To establish a strong bond with them as a hospital deeply rooted in the community, public relations activities are indispensable. Therefore, we began to seek a community center's cooperation from the end of the last fiscal year and conducted a questionnaire survey involving community residents to examine their recognition of the functions of our facility. An unexpectedly large number of residents recognized its functions. Some of them also expected that we will more actively participate in the community and provide consultation services through events, such as health promotion classes.

This paper reports the results of the questionnaire survey to develop insight into future public relations activities through a brief discussion. Tottori J. Clin. Res. 9(2), 143-147, 2017

**Key Words:** 地域医療連携室, 広報活動, 地域住民, アンケート, 健康教室; community-based medical liaison units, public relations activities, community residents, questionnaires, health promotion classes

## 1. はじめに

地域医療連携室は、院外の様々な施設との連携窓口であり、その業務の一つに広報活動があげられる。過去に様々な形で、開業医をはじめ、県東部圏域の医療機関へ当院の機能を広報し、患者確保に向けた取り組みを行い、徐々に紹介率は増えて来た。

しかし、当院に紹介された患者・家族の中には、「いつからこの病院が出来たのか?」、「ここは昔、結核の療養所だった所か」などといった言葉を聞くことが多々あり、地域住民の多くは、当院をいまだに結核の療養所と思っているのではないかと、地域住民は当院の医療機能について知らないのではないかと考えていた。

地域住民との繋がりを持ち、地域に根差した病院にするためには、地域住民への広報は不可欠である。昨年の年度末から、地域の公民館への働き掛けを行なった結果、各地区で当院の広報誌「砂丘」を回覧することが可能となり、地域住民向けに健康教室も開催することが出来た。また、当院の医療機能がどの程度認識されているのか、地域住民にアンケートを行うことも出来た。当院の機能を知っている地域住民が意外に多いことや、地域にもっと出てきて健康教室などの相談の要望があることも分かった。

アンケート結果と、今後の広報活動に向け示唆されたことを若干の考察とともに報告する。

## 2. 活動内容及び結果

### 1) 活動までの経緯

#### (1) 平成 28 年 10 月

末恒地区公民館（当院が立地している地区の公民館で、約 1500 世帯）へ連絡を取り、公民館活動への参加ができないか問い合わせを行った。公民館長との話し合いの結果、当院の広報誌を各地区に回覧してもらえること

になった。また、公民館活動については、次年度になってから相談することになった。

#### (2) 平成 29 年 2 月

管理診療会議にて地域住民への広報活動の必要性について説明し、各部署長にどのようなことができるか確認するとともに、公民館活動への協力依頼を行った。その結果、認知症について、脳卒中について、転倒予防についての他、栄養相談、ストレスチェックなど、当院の医療機能に即した内容ができるのではないかと、各部署から返事があった。

#### (3) 平成 29 年 4 月

年度初めになったため、公民館活動への参加依頼の申し込みをした。担当者との話し合いで、地域の方々がざっくばらんに集まる会“地域サロン”に参加できることになった。

### 2) 地域活動の内容と結果

#### (1) 第 1 回目活動（平成 29 年 5 月 12 日）

看護部として“看護の日”の PR を兼ね、公民館の地域サロンに出向き、看護師による健康相談“まちの保健室”を開催した。看護師 5 名が公民館に出向き、血圧測定、体脂肪測定、認知機能検査、感染管理認定看護師による正しい手洗いなどを行った。

当日の参加者は 25 名であり、好評であった。

#### (2) 第 2 回目活動（平成 29 年 7 月 12 日）

地域サロンに参加の地域住民の中より、地域サロンと同様の内容で健康教室を開催したいので、来て欲しいと依頼があり、2 回目の地域活動を開催することが出来た。1 回目と同様の内容で行い、看護師 4 名で参加した。

#### (3) 第 3 回目活動（平成 29 年 10 月 15 日）

公民館祭りへの参加に向け、公民館健康推進委員と打ち合わせの際、「私の地区でも何か開催したいが協力してもらえないか。」と相談があったため、地域住民はどのようなこと